

科目名	ナンバリング	区分(必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
在宅看護学実習Ⅱ（訪問看護ステーション）	NSP34_009	必修	2	3	後期
担当教員	研究室	電子メールID	オフィスアワー		
山崎 洋子 他	301	y.yamazaki	水曜日 12:10～13:00		

授業の目的・概要	在宅療養者とその家族の生活を把握し、健康障害や生活障害を持ちながら在宅でその人らしい生活を送ることを可能にする看護を考え、在宅看護に必要な基礎知識・技術・態度を学ぶ。実習方法は、課題学習、訪問看護師との同行訪問、事例演習、視聴覚学習を行う。実習の一部は Teams を活用したオンラインで行う。
学習上の助言	在宅看護学実習Ⅰで学んだ地域における看護活動の意義を踏まえて、在宅看護の特性である、療養者や家族の“生きる”ことを尊重した援助のための看護の役割について実践を通して学んで欲しい。
教科書	系統看護学講座 在宅看護論（第5版）/著:河原加代子 他/医学書院/2017
参考書	強みと弱みからみた在宅看護過程+総合的機能関連図/編:河野あゆみ/医学書院/2018

学生が達成すべき行動目標		関連卒業認定・学位授与方針
①	実習オリエンテーションを受け、実習目的やスケジュール等を理解できる	NS(1)
②	在宅療養者やその家族とのかかわりを通して、在宅看護ニーズの多様化と、在宅看護活動の特性を理解できる	NS(1)～(3)
③	在宅療養を支える制度や、社会資源を把握し、在宅療養生活を継続させる方策を考案することができる	NS(1)～(4)
④	在宅看護における関係機関や関係者との連携や協働の重要性を理解し、関係機関との調整において看護師が果たす役割を理解できる	NS(1)～(4)
⑥	地域ケアシステムの中で看護職が果たす役割を知り、実習で経験した地域ケアシステムを評価・検討することができる	NS(1)～(5)

授業計画	
1. 実習時期と期間	3年次後期 1週間
2. 実習施設（予定）	「おおくに訪問看護ステーション」「富士北麓訪問看護ステーション」「つる訪問看護ステーション」「訪問看護ステーションほほえみ」「訪問看護ステーションすずかけ」「いちのみや訪問看護ステーション」「玉穂訪問看護ステーション」
3. 実習展開	

1週目	月		火		水		木		金
	施設	学内	施設	学内	施設	学内	施設	学内	学内
午前 9:00 登校	オリエンテーション		学内課題演習		学内課題演習		学内課題演習		SCENARIO シミュレーション 演習①
午前 原則 自宅	施設オリエンテーション (動画視聴) 今クールで何う施設	同行訪問実習		同行訪問実習		同行訪問実習		課題学習	演習を振り返り、不足知識の自己学習
Teams 15:30	課題の確認		課題の確認		課題の確認		課題の確認	課題の確認	課題の確認
2週目	月		火		水		木		金
午前 9:00 登校	施設	学内	施設	学内	施設	学内	施設	学内	学内
午前 原則 自宅		学内課題演習		学内課題演習		学内課題演習		訪問体験報告会	【自宅】 まとめのレポート作成
Teams 15:30		課題の確認		課題の確認		課題の確認		課題の確認	課題の確認

4. 具体的な実習方法
1) 訪問看護に同行する
①同行訪問の事例について疾患と看護を調べる
②同行訪問について、学習目標を明確にする
③訪問看護ステーションにて、事例のカルテを閲覧し、看護師より事例対象者の説明を受ける
④訪問看護師に同行して療養者宅へ訪問する
⑤同行看護師の指導の下で援助に参加する
⑥同行訪問事例の実習記録をまとめる
2) 事例演習
①ワークブックに沿って、各自で事例演習に取り組む
②訪問看護導入に関する事例、日常生活援助の事例、認知症高齢者の事例の3つの事例に取り組む
③各自で考えたアセスメントや援助計画が適切かを、解説動画を観て振り返る
3) 在宅看護シミュレーション演習
①在宅療養者の病状変化に対応する看護判断を、演習を通して考える
②シミュレーション後に、事例の病態や看護ケアの復習を行い、看護アセスメントの必要性を再確認する。
4) 視聴覚学習（動画の視聴）
①訪問診療医、訪問看護師、地域連携室・外来看護師による在宅医療・看護活動の実際についての講義動画を視聴する。
5) 日々の学びを実習記録にまとめる
①課題学習や体験を通して気づいたことや学びを、わかりやすく表現しまとめる
②実習まとめのレポートを作成する

学習課題・学習時間（時間）						
<ul style="list-style-type: none"> <li>課題学習では指示された課題について取り組み、学びや考えたことをわかりやすくまとめる。</li> <li>事例演習や日々の学びを記録にまとめる中で、在宅看護の特性を理解し、地域における看護活動の特性を考察していく。</li> <li>また、疑問点はなるべくその場で質問し解決するとともに、自主学習においても調べる習慣を持つ。</li> <li>実習終了時にはテーマに沿って自分の考えをレポートにまとめる。</li> </ul>						
						必要時間： 10時間

達成度評価							
総合評価割合（%）		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		0	50	10	10	30	100
総合力指標	知識・技術力	0	10	0	0	0	10
	思考・推論・創造する力	0	20	0	5	0	25
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	5	5
	発表・表現伝達する力	0	10	5	0	5	20
	コミュニケーション力	0	0	5	0	5	10
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	5	15	20
問題を発見・解決する力		0	10	0	0	0	10

評価のポイント				フィードバックの方法		
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点				
レポート	①	✓	「本日の実習記録」において、日々の実習目標を立て、教員のチェックを受ける。さらに、実習実施内容および学びをまとめ翌日提出する。事例演習ワークブックの記載により、在宅看護の知識・思考・推論・創造する力を教員により評価する。実習終了時には「実習のまとめレポート」をまとめ指定期日までに提出する。			「本日の実習記録」をもとに、学生の理解度を確認し、個別がグループで振り返りの機会を作る。
	②	✓				
	③	✓				
	④	✓				
	⑤	✓				

成果発表	①	✓	訪問看護師との同行訪問および課題学習、事例演習での学びについて、学内において報告会を行う。	報告会において教員から講評を行う。
	②	✓		
	③	✓		
	④	✓		
	⑤	✓		
ポートフォリオ	①	✓	課題学習や日々の記録など学習した内容の資料を整理し、実習終了後に提出する。	内容や整理状況を確認し、必要時、個別にコメントする。
	②			
	③			
	④			
	⑤			
その他	①	✓	学生が到達すべき行動目標①～⑤の到達度、および、実習への姿勢について教員により総合的に評価する。	学生の自己評価をもとに、学生自身の課題が明確になるように教員と面接を行う。
	②	✓		
	③	✓		
	④	✓		
	⑤	✓		
備 考				

担当教員：◎山崎 洋子、望月 宗一郎、伊丹 幸子、渡邊 美樹

この科目は、担当教員が保健所・市町村における行政保健師活動および訪問看護活動、さらに大学病院における医療連携室での退院調整や療養生活相談等の経験を元にして、地域で健康障害や生活障害を持ちながら在宅でその人らしい生活を送ることを可能にする看護の実践を、現場の訪問看護活動に意味づけしながら指導し、地域ケアシステムに必要な知識と技術の習得を目指します。

訪問看護師との同行訪問の際は、実習指導者の指示に従い標準的感染予防策を徹底し、自身の体調管理を心がけてください。登校の際は、大学が公表している感染対策および教員が示す授業方法を遵守してください。

実習内では Teams を使った課題学習の時間があります。その際、通信容量が無制限の Wi-fi 環境を推奨します。

今後の新型コロナウイルス感染症の状況など社会情勢によって再度シラバスを変更する可能性があります。